

常に火鉢に火を絶やさぬ様。また湯の必ず沸いて居る様注意のこと。

執事。書生。

五時半起床

玄関、内玄関、大門の戸を明く。

新聞を居間に運ぶ。

玄関、内玄関の内外及自分等の部屋掃除。

其他の用事。取次、電話、郵便などの整頓。

執事は午後十時に戸締巡視の爲家の内外を検査のこと。

車 夫

父の出勤前に門前、庭前の掃除。

後父の供。

斯様なわけで多忙中にてよく子女を教育し、一家を管理して居らるゝ方は皆かくの如く、用意周到なのでございます。此れは今日以後の家庭に極めて大切なる事だらうと存じます、東京ではかゝるゝ事をして居らるゝ方を見受けるのでございますが、地方に於てはまだ〳〵の事と存じます。

家事を教ふる私共は其必要を知らしむると共に、土地相應なる標準を作り之を示しただに女中

の仕事のみならず、女中のなき場合を本體として、一家合併の日課表を作らしめて、すべて一家萬般の事を順序よく秩序を立て、着々事を運ばしむるやうに養成して行かなければならないと存じます。

利殖につきて

技藝科四年 小林 ちん

熊野 八 ちん

藤井 ちん

我國の現在が如何なる状態に於てあるかと云ふ事は、新聞なり雑誌なりまたは其他の各方面より充分御存じの事と存じます。先には増師問題が起り次いで政界に一大波瀾を生じ、動搖何時やむとも思はれません、然しながら日本が若しも富國であつて、要求のまゝに師團を増設したならば或は政界の今に至る事なしに平穩無事で進んで來たかも知れないと思はれます。また我々に最も深い關係を有して居る教育界に於て、考へて見ましても教育費削減と云ひ、廢校併校と云ふ聲をきゝます、日清日露の戦役に於て我國の戦勝は其國民教育の大にあづかる處ありなどゝ云ひながら、而も教育の舞臺はこわしてせばめられつゝあります。

然し日本の經濟と云ふ事を知る人は泣きながらも、口をつくまねばなりません。

先に高木博士のお話の中にもございましたが、現在我國の國債(内債外債)が約三十億、其利子として毎年支拂ふべきものが實に一億五千萬圓であります。本校の經營費は約十三萬圓で、これを計算して見ますと、我國債の利子即ち二億五千萬圓を以て本校は千百五十三年以上維持する事が出来るのでございます。若しも之を以て軍艦を造るといたしますと二萬何十噸と云ふ戰艦が七艘も造り得られます。之を見ても一億五千と云ふお金が、どれだけの働きを有するものであるかは明になります。

次に此三十億と云ふ負債を日本人全体に配當して見ますと、最近の人口六千八百萬として一人四十四圓十錢の負債となります、六千八百萬と云ふ中には全く生産力のない老人も赤子も數へられて居ります。十人の家屬を有する一家に於ては四百四十一圓の借財を有し、七人の家では三百餘圓の借財を擔つて居る譯でございます。一家の内に三百四百と云ふ借財を有して居ると云ふは、少くとも其家に取つては不幸でなければなりません。然るに日本の家庭に於ては悉く斯様な割合に於て借財を有して居ると云ふ事は、どう考へて見るも思ひ得ない悲しむべき事で御座います。此状態から一家を救ひ家族を救ひ出さんとするならば、どうしても國民一般の努力にまつより外はありますまい、一方に殖産興業に努力し、一方には勤儉貯蓄にはげみ積極に消極に我々國民は

驀進に進まなければなりません。貯蓄と云ふ事は餘財の蓄積と申します、然しながら日本の現在に於て餘つた財を蓄積するはあまりに暢氣に過る、餘らざる財を蓄へるのでなければ今の日本には間にあひません。然しながら蓄積するに其方法によつては、其結果に大なる差が出来るのではありますまいか、たとへば一人が一錢つゝのお金を蓄へるとする、一錢と云へば殆ど何にもする事が出来ないほどの小額である。然るに日本の國民凡てが一緒になつて一錢つゝ蓄へるとすると既に六十八萬圓と云ふお金が出来る、これだけのお金があれば可なり目に見える仕事が出来ない事もありますまい。猶これが活用されるなら利は延ひて僅一錢のお金が、おそろしい莫大な結果を生ずるに至るであります。

斯様考へて見ますと今我國になして居る處の貯蓄の機關及其利殖の方法と云ふ事を知つておくの必要がある様に思はれます。

先づ前申しました機關としては

普通貯金

一、郵便貯金

切手貯金

……四分二厘位

特別貯金

當座預金

日歩一錢位

特別當座預金 同 一錢三厘——五厘

二、銀行預金 定期預金 (六月——一年)六分強

貯蓄預金 五分——五分五厘

三、保 險 Ⅱ さゝか期を異にしては居ります、が一種の貯金と見る事が出来る様に思ひます。

これによりまして實際に計算致しますと、次の様な結果になります、誰にでも出来る様にと極く小額を取りまして毎月一圓即ち一年に十二圓つゝを貯蓄すると致しまして、三十年間の利殖の有様を表しましたもので御座います。

割	年	一ヶ年目	五ヶ年目	十ヶ年目	十五ヶ年目	二十ヶ年目	廿五ヶ年目	三十ヶ年目
元	金	一、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇
元	利	二七	一、八六	三、四六二	八五、五六	一六七、四二	二八八、八四	四六〇、八二
元	利合計	一、二二七	六七、八六	一、五三四、六二	二、六五六、五六	四、〇七、四二	五、八八、八四	八、二〇、八二
元	金	一、二〇〇	六〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇
元	利	三四	八、六八	三七、八三	九三、五二	一八三、六五	三一一、四五	五一一、二四
元	利合計	一二、三四	六八、六八	一二七、八三	二七三、五二	四二三、六五	六一八、四五	八七一、二四

俗に金が金を産むと云ふのは實に此事でございます。其増殖の速い事は驚くの外はありません一圓と取りましたのは、一には我々が卒業致しましてからの最少限度を申しましたので、出来る

なら出来るだけ多ければ多だけ、それだけ利殖も大きい譯で御座います。然し我々學生時代には家から一定の學資金をもらつて勉強して居るのでありますから、たとひ一錢でも餘分のお金があるわけはありませんが、其心懸は同じ事出来るだけ廣く應用していたゞきたい、一寸の不注意の爲に一錢二錢のお金は何處からとて消えてゆくか分らないもので御座います、其最も最近な割を一つ二つ擧げて見ますと、

本校附屬校園も一緒にして約二千人の生徒があります、其一人一人が一ヶ月に三四本つゝのペン先を使用するものと致しまして、其僅一本つゝを儉約して四本の處を三本三本の處を二本と致しますと、一月には十圓一年間には百二十圓と云ふ額に昇ります。

紙によりて申して見ませう、一人が一月に二枚つゝ儉約するとして、一月に六圓一年には七十二圓、これを毎年預け入れて卒業するまで、即ち四年間置くと三百三十六圓となります。

技藝科の者は針に親しみます、従つて針に對してはどうしても粗末になり易い傾があります。其針一本一厘一ヶ月に二本無駄にしない様にするると一ヶ月四圓、一年に四十八圓四年間には利子がつかないとしても百九十二圓となる、又半襟について縮緬を用ふると否とは、經濟上どう異うかと云ふ事だ、人によりまして意見がちがいますが、此處には多くお金の高から申しますといくら安い襟にしても縮緬ならば五十錢位、メワンスの衿が八錢少くとも其差は四十二錢となり

ます、それを本校生徒のみにしても四百人と概算して百六十八圓の差となります。

こふ云ふ風に擧げて來ますと、ピン一本鉛筆半分即ち我々の日用、用ふる總ての物品はこふ云ふ利殖の道をもつて居ります。我々の間にもし之が實行出來てこふ云ふお金が生じたとする、之をうまく活用してゆけばまた多くの利殖を見る事は明であります。

我々四百人の生徒が日常用ふる總ての物品に對して、商人に與ふる處の利益は甚しいものであると思はれます。此を前に述べました様な方法によつて出來たお金を以て、私共の間に公賣會の様なもの組織する、そうすると今まで徒らに商人の懐を温めて居た利益は浮いて來て、我々日常の需用は容易な方法によつて充される譯であります。そして其處に生ずる利益は適當な處置を以て適當に活用させる、現に廣嶋縣の師範學校には早くから公買會が組織されて、一定の室に物品が並べられて各々價格が記入してある、其傍に貯金箱の様なもの置いてあつて、人は一人も居ないほしいと思ふものは品物を取つて、相當の價だけお金を其箱の中へ入れる、こふ云ふ風にして毎月末に品物の殘高と賣上金高とをしらべて、其月の決算をする其時金高が多うなる事はあつても不足して居る事は一度もないと云ふ事でありませう、但し多くなると云ふのは、つり錢等の三厘五厘を其まゝ入れる人があるからで御座いませう。

こふ云ふ風な事は經濟上の利益は勿論の事、其團體の徳義と云ふ事に大に關係があります、やか

ては人の師表とならふと云ふ人々の團體が、これ位の事の出來るのは當然で、出來ないのがむしろ不思議かも知れません。

いろく述べて參りましたけれども、要するに我國の現状にかんかみ我々國民は一刻も早く、其貧乏から逃れて富國の源を作らなければなりません、貯蓄と云ふ事は其一つの方便であつて、まだそう云ふ心を養ふものではありませんまいか。

ストーブの研究 (其二)

温度及湿度ノ變化

技藝科三年 堀

と きの

黒 田 き 五 み

坂 本 や す

ストーブの研究ト云フコトヲ餘リ耳ニシタコトガ御ザイマセンノデ、時節柄ストーブの研究モ面白カラフト思ヒマシテ少シ計リ致シテミマシタ。

私共ノ致シマシタノハ就中温度及ビ湿度ノ方デ御座イマシテ、先ツ研究ノ中心トシテ致シマシタノハ寄宿舎ノ瓦斯ストーブデ、皆サンガ餘リ暖味ヲ感ゼヌ火鉢ノ方ガマシダト仰シヤル、アノストーブガ果シテ一時間二時間……ト經ツ間ニドンナ梅鹽ニ温度ガ昇ルモノデアラウカ、又咽喉ヲ